

CZ-366-026

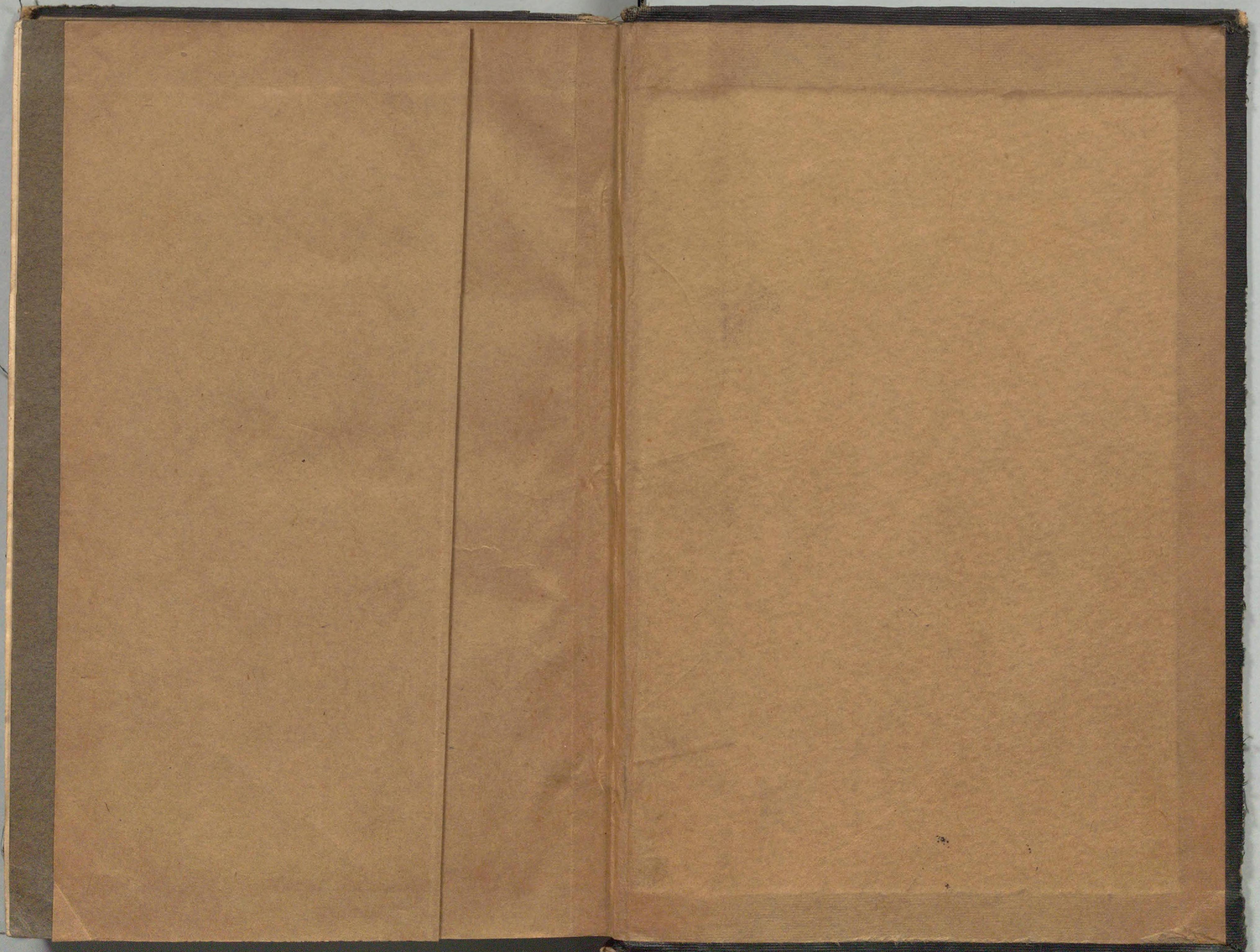


1200901599093

147
380

禁電子式複写

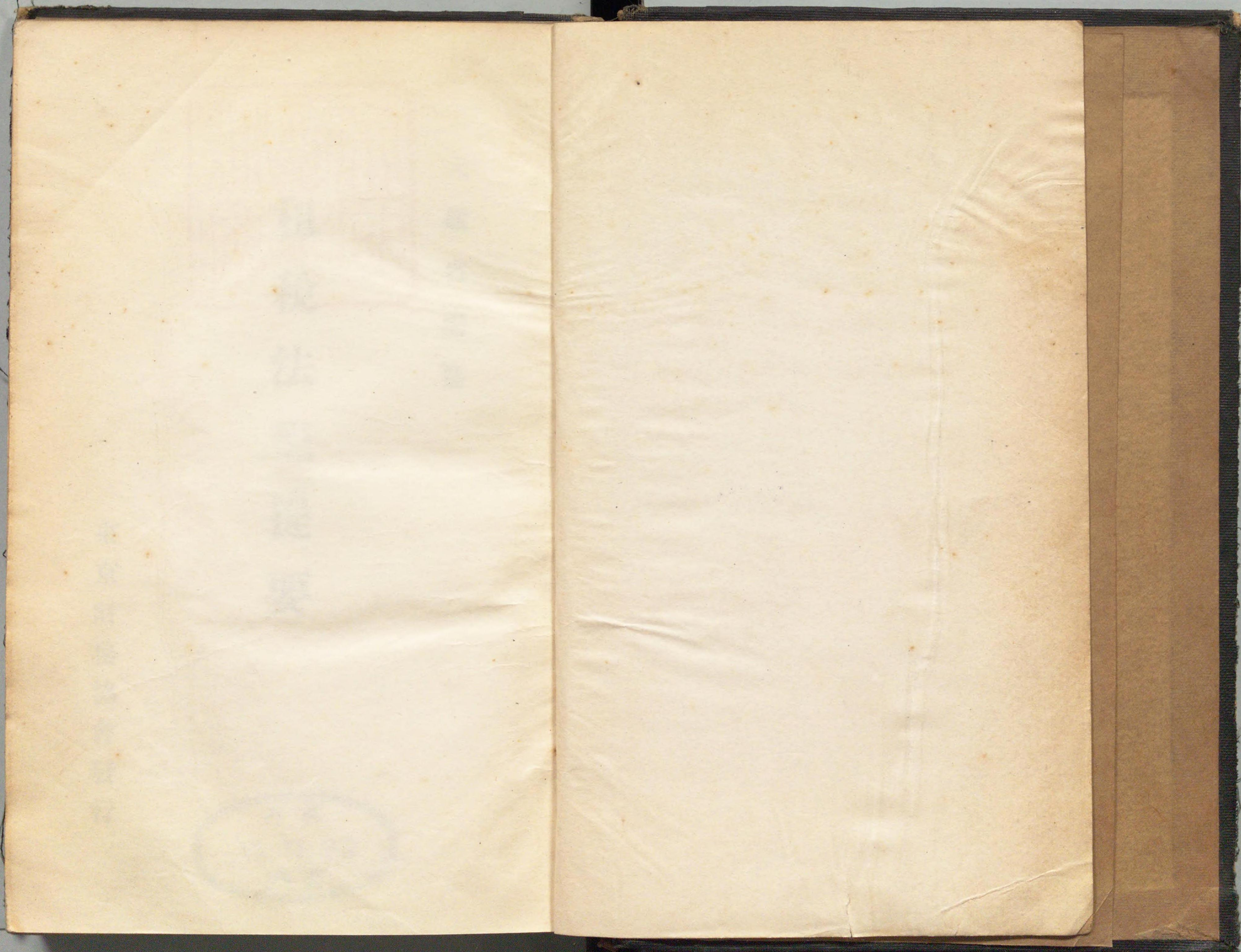




大藏省編纂

租稅法規提要

東京財務協會發行





大藏省編纂

租稅
法規提要

東京財務協會發行



147-380

c 2
366
026

東京商工大学
蔵書

例言

一本書ハ内國稅、輸入稅ノ免除又ハ拂戻、地方稅ノ制限及國稅徵

收等ニ關スル法規ヲ編纂シタルモノナリ

二本書ハ大正十五年十月一日現在ノ法規ニ基キ編纂シタリ

目次

所得稅

一 所得稅法	發令	年	月	法律	番號	頁
一 所得稅法ノ施行ニ關スル件	大正	九	七	法律	二	一
一 所得稅法施行規則	大正	九	七	法律	二	二七
一 所得稅法施行細則	大正	九	七	勅令	二二六	二九
一 國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル件	大正	一〇	五	大藏省令	四	五七
一 國債ノ利子所得稅免除ニ關スル件	明治	三八	二	法律	一九	八五
一 復興貯蓄債券法(抄錄)	明治	四二	三	法律	七	八五
一 外國船舶ノ所得稅免除ニ關スル件	大正	一三	七	法律	一五	八六
一 產業組合法(抄錄)	大正	一三	七	法律	六	八六
一 產業組合中央金庫法(抄錄)	明治	三三	三	法律	三四	八六
一 住宅組合法(抄錄)	大正	一三	三	法律	四二	八六
一 輸出組合法(抄錄)	大正	一〇	四	法律	四三	八六
一 重要輸出品工業組合法(抄錄)	大正	一〇	四	法律	六六	八七
一 漁業法(抄錄)	大正	一四	三	法律	二七	八七
	大正	一四	三	法律	二八	八七
	明治	四三	四	法律	五八	八七

目次

附言

一 本書ハ明治三十八年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 二 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 三 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 四 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 五 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 六 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 七 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 八 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 九 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ
 十 本書ハ大正十五年十月十八日法律ノ施行ニ關スルモノナリ

一 農業倉庫業法(抄録).....大正 六、七 法律 一五.....八七

一 製鐵業獎勵法(抄録).....大正 一五、三 法律 四九.....八七

一 軍事救護法(抄録).....大正 六、七 法律 一.....八九

地 租

一 地租條例.....明治一七、三 布告 七.....九一

一 地租條例施行規則.....明治四三、一二 勅令 四四四.....一〇一

一 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル公
共團體及期間指定ノ件.....明治三八、五 勅令 一五九.....一〇七

一 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル
件.....明治四四、四 勅令 九二.....一〇八

一 鐵下年期新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ
關スル法律.....明治三四、四 法律 三〇.....一一〇

一 開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル法律.....明治三四、四 法律 三一.....一一一

一 舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタル
田畑ノ地租免除ニ關スル法律.....大正 一五、三 法律 四七.....一一一

一 災害地地租免除法.....大正 三、二 法律 一.....一一二

一 災害地地租免除法施行方ノ件.....大正 三、三 大藏省令 五.....一一三

一 地租、地租附加税及反別割ニ關スル法規ヲ皇族
所有土地ニ適用スルノ件.....大正 二、七 皇室令 八.....一二五

一 私立學校用地免租ニ關スル法律.....大正 八、四 法律 三八.....一二五

一 私立學校用地免租ニ關スル法律施行方.....大正 八、一二 大藏省令 三三.....一二六

一 水道條例(抄録).....明治二三、二 法律 九.....一二六

一 砂防法(抄録).....明治三〇、三 法律 二九.....一二六

一 砂防法施行規程(抄録).....明治三〇、一〇 勅令 三八二.....一二七

一 砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關ス
ル件.....明治三二、八 勅令 三七四.....一二七

一 北海道舊土人保護法(抄録).....明治三二、三 法律 二七.....一二八

一 森林法(抄録).....明治四〇、四 法律 四三.....一二九

一 北海道國有未開地處分法(抄録).....明治四一、四 法律 五七.....一二〇

一 地種變更免租年期ニ關スル法律.....大正 七、五 法律 四三.....一二〇

一 地種變更免租年期ニ關スル法律施行規則.....大正 七、五 大藏省令 三三.....一二一

一 都市計畫法(抄録).....大正 八、四 法律 三六.....一二三

一 航空法(抄録).....大正 一〇、四 法律 五四.....一二三

一 耕地整理法(抄録).....明治四二、四 法律 三〇.....一二四

一 耕地整理法施行規則(抄録).....明治四二、一〇 農商務省令 三九.....一二九

一 地租徵收ニ關スル法律.....明治三七、四 法律 一二.....一二三

一 土地臺帳規則.....明治二二、三 勅令 三九.....一二四

一 土地臺帳規則施行細則……………明治三二、四 大藏省令六……一三四

營業收益稅

一 營業收益稅法……………大正一五、三 法律 一一……一三七

一 營業收益稅法施行規則……………大正一五、九 勅令 三〇三……一四三

一 營業收益稅檢査章書式ノ件……………大正一五、九 大藏省令三五……一四九

一 貯蓄銀行法(抄錄)……………大正一〇、四 法律 七四……一五〇

一 鑛業法(抄錄)……………明治二八、三 法律 四四……一五〇

一 保險業法(抄錄)……………明治三三、三 法律 六九……一五〇

資本金子稅

一 資本金子稅法……………大正一五、三 法律 一二……一五一

一 資本金子稅法施行規則……………大正一五、三 勅令 三一……一五五

一 資本金子稅法施行細則……………大正一五、四 大藏省令一六……一五六

相續稅

一 相續稅法……………明治二八、一 法律 一〇……一六三

一 相續稅法施行規則……………明治二八、三 勅令 六八……一七五

鑛業稅

一 鑛業法(抄錄)……………明治三八、三 法律 四五……一八三

一 砂鑛區稅法……………明治四三、三 法律 九……一八七

登錄稅

一 登錄稅法……………明治二九、三 法律 二七……一八九

一 登錄稅法施行規則……………明治三二、五 勅令 二〇五……二一七

一 國稅徵收法(抄錄)……………明治三〇、三 法律 二一……二一九

一 北海道舊土人保護法(抄錄)……………明治三二、三 法律 二七……二一九

一 保險業法(抄錄)……………明治三三、三 法律 六九……二二〇

一 永代借地權ニ關スル件(抄錄)……………明治三四、九 法律 三九……二二〇

一 北海道士功組合法(抄錄)……………明治三五、三 法律 一一……二二〇

一 北海道國有未開地處分法(抄錄)……………明治四一、四 法律 五七……二二〇

一 耕地整理法(抄錄)……………明治四二、四 法律 三〇……二二一

一 破產法(抄錄)……………大正一一、四 法律 七一……二二一

一 和議法(抄錄)……………大正一一、四 法律 七二……二二一

一 產業組合中央金庫法(抄錄)……………大正一二、四 法律 四二……二二二

一復興貯蓄債券法(抄録).....大正一三、七 法律 一五.....二二二

兌換銀行券發行稅

一兌換銀行券條例(抄録).....明治一七、五 布告 一八.....二二三

一兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律.....明治三二、三 法律 五六.....二三四

一發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ平均發行高其ノ他ニ關スル件.....明治三二、三 大藏省令九.....二三四

一兌換銀行券制限外發行稅納付ニ關スル件.....大正 元、一〇 大藏大臣達 往第二、三、七、四.....二三五

酒 稅

一酒造稅法.....明治一九、三 法律 二八.....二二七

一酒造稅法施行規則.....明治一九、八 勅令 二八七.....二二九

一沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造稅ニ關スル法律.....明治四一、三 法律 二四.....二五〇

一樺太酒類出港稅法.....大正 元、八 法律 二.....二五一

一樺太酒類出港稅法施行規則.....大正 元、八 勅令 九.....二五三

一酒造組合法.....明治三八、一 法律 八.....二五二

一酒造組合法施行規則.....明治三八、一 勅令 八.....二五五

一酒母、醪及麴取縮法.....明治三八、一 法律 七.....二六一

一酒母、醪及麴取縮法施行規則.....明治二八、一 勅令 七.....二六四

一酒精及酒精含有飲料稅法.....明治三四、三 法律 八.....二六八

一酒精及酒精含有飲料稅法施行規則.....明治三四、八 勅令 一六五.....二七五

一果實酒ト看做スモノノ取扱方ノ件.....明治三八、三 大藏省令一.....二八〇

一酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律.....明治四三、三 法律 六.....二八一

一酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律施行ニ關スル件.....明治四三、三 勅令 一八四.....二八二

一酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律.....明治三四、三 法律 一〇.....二八四

一明治三十四年法律第十號施行規則.....明治三四、八 勅令 一六六.....二八六

一工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法.....明治三九、四 法律 四六.....二八九

一工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法施行規則.....明治三九、四 勅令 八六.....二九一

一臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件.....大正一一、六 勅令 三〇五.....二九六

一工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等ニ關スル件.....大正一五、五 大藏省令三.....二九七

一南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒

類其ノ他酒精含有飲料ノ出港税ノ免除等ニ關スル件.....大正一五、九

一 麥酒税法.....明治三四、三 勅令 三〇〇.....三〇五

一 麥酒税法施行規則.....明治三四、八 勅令 一六八.....三二二

清涼飲料税

一 清涼飲料税法.....大正一五、三 法律 一六.....三二七

一 清涼飲料税法施行規則.....大正一五、三 勅令 三三.....三三一

一 清涼飲料水營業取締規則.....明治三三、六 內務省令三〇.....三七

一 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル件.....明治三三、二 法律 一五.....三一

砂糖税

一 砂糖消費税法.....明治三四、三 法律 一三.....三三三

一 砂糖消費税法ヲ臺灣ニ施行スル件.....明治三四、八 勅令 一五五.....三四〇

一 砂糖消費税法施行規則.....明治三四、八 勅令 一六九.....三四一

一 煉乳原料砂糖戻税法.....明治四一、三 法律 二七.....三五三

一 煉乳原料砂糖戻税法施行規則.....明治四一、三 勅令 四九.....三五四

一 輸出菓子糖果原料砂糖戻税法.....明治四二、三 法律 一八.....三五五

一 輸出菓子糖果原料砂糖戻税法施行規則.....明治四二、三 勅令 六四.....三五六

一 輸出菓子糖果原料砂糖戻税法臺灣ニ施行ノ件.....明治四四、七 勅令 一九六.....三五八

一 砂糖消費税織物消費税等ノ徵收ニ關スル件.....明治四四、三 法律 四五.....三五九

一 砂糖消費税織物消費税等ノ徵收ニ關スル件.....明治四四、六 勅令 一八六.....三六〇

一 明治四十四年法律第四十五號ヲ臺灣ニ施行ノ件.....明治四四、六 勅令 一八九.....三六一

織物税

一 織物消費税法.....明治四三、三 法律 七.....三六三

一 織物消費税法施行規則.....明治四三、三 勅令 一八五.....三七〇

取引所税

一 取引所税法.....大正三、三 法律 二三.....三七九

一 取引所税法施行規則.....大正三、七 大藏省令三.....三八四

一 取引所法(抄録).....明治二六、三 法律 五.....三八六

一 取引所令(抄録).....大正一一、七 勅令 三五三.....三九一

一 取引所法施行規則(抄録).....大正三、六 農商務省令一六.....三九二

印紙税

一 印紙税法.....明治三二、三 法律 五四.....三九三

一 保管金規則(抄録).....明治三三、一 法律 一.....四〇〇

一 國稅徵收法(抄錄).....	明治三〇、三	法律	二一.....四〇〇
一 郵便爲替法(抄錄).....	明治三三、三	法律	五五.....四〇〇
一 間接國稅犯則者處分法(抄錄).....	明治三三、三	法律	六七.....四〇〇
一 貯蓄債券法(抄錄).....	明治三三、三	法律	一八.....四〇一
一 郵便貯金法(抄錄).....	明治三三、三	法律	二二.....四〇一
一 簡易生命保險法(抄錄).....	明治三三、三	法律	三三.....四〇一
一 健康保險法(抄錄).....	大正一五、七	法律	四〇.....四〇一
一 產業組合中央金庫法(抄錄).....	大正一一、四	法律	七〇.....四〇一
一 復興貯蓄債券法(抄錄).....	大正一二、四	法律	四三.....四〇一
一 郵便年金法(抄錄).....	大正一三、七	法律	一五.....四〇二
一 稅印押捺請求方ニ關スル件.....	大正一五、三	法律	三九.....四〇二
一 稅印押捺請求書記載方ノ件.....	明治三二、三	大藏省令	五.....四〇二
一 稅印押捺用紙損傷又ハ汚染ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件.....	明治三四、五	大藏省告示	二.....四〇三
一 印紙模造取締規則.....	明治三九、九	大藏省令	四一.....四〇三
一 骨牌稅法.....	大正 五、七	大藏省令	一八.....四〇四
一 骨牌稅法施行規則.....	明治三五、四	法律	四四.....四〇五
一 骨牌稅法施行規則.....	明治三五、五	勅令	一五四.....四〇八

骨牌稅

狩獵稅

一 狩獵法(抄錄).....	大正 七、四	法律	三三.....四一三
一 狩獵法施行規則(抄錄).....	大正 八、八	農省務省令	三八.....四一四

輸入稅免除拂戻

一 關稅定率法(抄錄).....	明治四三、四	法律	五四.....四一五
一 關稅法(抄錄).....	明治三一、三	法律	六一.....四一五
一 關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件.....	大正一五、五	勅令	二三八.....四一六
一 關稅定率法第九條施行ニ關スル件.....	大正一〇、五	大藏省令	一八.....四三〇
一 釐澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律.....	大正一三、七	法律	二四.....四三五
一 大正十三年法律第二十四號第二項ニ掲クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入稅一部免除ニ關スル件.....	大正一四、四	勅令	五六.....四三六
一 大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件.....	大正一四、四	大藏省令	八.....四三七

殖民地關係

一 内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律.....	大正 九、八	法律	五一.....四三九
一 大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件.....	大正 九、八	勅令	三一.....四四〇

一朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ
内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律……………大正九、八 法律 五二……四四一
一大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件……………大正九、八 勅令 三二……四四三

間接國稅犯則者處分

一 間接國稅犯則者處分法……………明治三三、三 法律 六七……四四五
一 間接國稅犯則者處分法等ヲ樺太ニ施行スルノ件
(抄録)……………大正元、八 勅令 一二……四四九
一 間接國稅犯則者處分法施行規則……………明治三三、三 勅令 五二……四五〇
一 間接國稅犯則者處分法ニ依ル收稅官吏ノ證票樣式……………明治三三、三 大藏省令 五……四五五
一 法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律……………明治三三、三 法律 五二……四五六

地方稅

一 地方稅制限ニ關スル法律……………明治四一、三 法律 三七……四五七
一 都市計畫法(抄録)……………大正八、四 法律 三六……四六一
一 地方稅ニ關スル法律……………大正一五、三 法律 二四……四六三

國稅徵收

一 國稅徵收法……………明治三〇、三 法律 二一……四六九
一 國稅徵收法施行規則……………明治三五、四 勅令 一三五……四七九
一 國稅徵收法施行細則……………明治三〇、六 大藏省令 一〇……四八七
一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムル件……………大正四、一 勅令 六……四九二
一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程……………大正四、一 大藏省令 一……四九二
一 國庫出納金端數計算法……………大正五、一 法律 二……四九七
一 國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件……………大正五、三 大藏省令 二……四九八

所得稅

目次

第一章 總論	一
第二章 所得稅之種類	五
第三章 所得稅之課稅對象	一〇
第四章 所得稅之課稅標準	一五
第五章 所得稅之課稅時期	二〇
第六章 所得稅之課稅地點	二五
第七章 所得稅之課稅負擔	三〇
第八章 所得稅之徵收	三五
第九章 所得稅之免稅	四〇
第十章 所得稅之退稅	四五
第十一章 所得稅之罰則	五〇
第十二章 所得稅之附屬規定	五五

租稅法規提要

所得稅

所得稅法

(大正九年七月三十一日法律第十一號)

改正

大正十一年四月十八日法律第四十五號
大正十二年三月二十七日法律第八號
大正十二年三月二十九日法律第二十九號
大正十二年四月六日法律第四十一號
大正十五年三月二十七日法律第八號

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第一條ノ二 (大正十五年法律第八號刪除)

第二條 第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス (大正十二年法律第八號及同法律第二十九號改正)

- 一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ
- 二 本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ
- 三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又

所得稅 所得稅法

ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス(大正十二年法律第八號、同法律第二十九號及大正十五年法律第八號改正)

第一種

甲 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ清算所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ二 信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ

信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十一年法律第四十五號追加及大正十二年法律第二十九號改正)

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト

雖尙所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス(大正十二年法律第二十九號追加)

第三條ノ三

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財産ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號追加)

第四條 法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル(大正十五年法律第八號改正)

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ普通所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス(同上)

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス(大正十五年法律第八號改正)

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算

シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號改正)

第九條 (大正十五年法律第八號刪除)

第十條 (大正十五年法律第八號刪除)

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス(大正十五年法律第八號改正)

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス(同上)

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス(大正十五年法律第八號改正)

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額
株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス(同上)

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス(同上)

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得
(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス(大正十五年法律第八號改正)

- 一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一
 - 二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一
 - 三 所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一
- 戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號改正)

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ
前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス(同上)

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先

ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癱疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス(大正十一年法律第四十五號追加)

第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス(大正十二年法律第四十一號追加)

第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第八號改正)

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第八號改正)

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及
其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六
條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ(大正十五年法律第八號改
正)

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以
上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(大正十五年法律第八號改
正)
甲 普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人 百分ノ五
本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人 百分ノ十
乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス
積立金又ハ本法其他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五
其ノ他ノ金額 百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該
事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス(同)

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入
セス(同)

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス(同)

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アル
トキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、
五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ
百分ノ二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割
合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル
一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得(大正十五年法律
第八號追加)
一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當ス

所得稅 所得稅法

ル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得申留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ(同上)

第二十二條

第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利子

百分ノ四

其ノ他

百分ノ五

乙

百分ノ七・五

信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財産ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス(大正十五年法律第八號追加) 前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス(同上) 第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅

率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス(大正十五年法律第八號改正)

千二百圓以下ノ金額

百分ノ〇・八

千二百圓ヲ超ユル金額

百分ノ二

千五百圓ヲ超ユル金額

百分ノ三

二千圓ヲ超ユル金額

百分ノ四

三千圓ヲ超ユル金額

百分ノ五

五千圓ヲ超ユル金額

百分ノ六・五

七千圓ヲ超ユル金額

百分ノ八

一萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ九・五

一萬五千圓ヲ超ユル金額

百分ノ十一

二萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十三

三萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十五

五萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十七

七萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十九

十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十一

二十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十三

五十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十五

所得稅 所得稅法

百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十七
 二百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十
 三百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十三
 四百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十六
 前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス
第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ（大正十五年法律第八號改正）

第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ（同上）

第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得（大正十二年法律第八號追加）

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス（大正十二年法律第八號改正）

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス（大正十二年法律第八號追加）
第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得（大正十二年法律第八號改正）

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調查委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調查委員及補闕員ノ選舉區域ハ所得調查委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル(大正十二年法律第八號改正)

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス(同改正)

第三十一條 選舉區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付キ其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調查委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調查委員若ハ補闕員ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號改正)

一 無能力者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケタルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラ

レタル後五年ヲ經サル者

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス(同改正)

前二項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス(同改正)

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十條 第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス(大正十二年法律第八號追加)

第三十三條 稅務署長ハ調查委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ調查委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十五條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡

同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當

選人及市町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス(大正十五年法律第八號改正)

選舉區域ノ變更ニヨリ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者

及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル

場合ニ於テハ調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ

其ノ選舉區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月

ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス(同上)

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合

ニ之ヲ準用ス(同項加)

第四十二條 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條 調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投

票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調

査委員及補闕員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條 調査委員又ハ補闕員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ

所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ

選舉區域内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ(大正十五年法律第八號改正)

第四十六條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 五月三十一日迄ニ所得調查委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス(六正十五年法律第八號改正)

五年法律第八號改正

所得調查委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス(同七)

第五十二條 政府ハ所得調查委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調查委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二 利子支拂期限及利率

三 償還ノ方法及期限

四 數回ニ分テ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲナス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支

拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ(六正十一年法律第四十五號追加)

第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得(同改正)

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得(六正十一年法律第四十五號改正)

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(六正十五年法律第八號改正)

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アリ

ルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
(大正十五年法律第八號改正)

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ
得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄內ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄內各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北
海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以
上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キ

タルトキハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號改正)

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用

セス(同上)

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルト

キハ之ヲ更訂ス(大正十五年法律第八號改正)

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政
訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合
併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ム
ヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理
人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコト
ヲ得(大正十五年法律第八號改正)

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル稅金ヲ納付セスシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所以外、住所ナキトキハ居所以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之下親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得(天正十五年法律第八號改正)

第七十三條ノ三 (天正十五年法律第八號改正)

第七十三條ノ四 (天正十五年法律第八號改正)

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ通脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス(天正十二年法律第八號改正)

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(天正十一年法律第四十五號改正)

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス(同上)

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第

四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限り、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス

第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限り本稅ノ三割五分ヲ増徴ス

大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本

稅ノ三割五分ヲ増徴ス

第八十二條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス

從前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補闕員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限り第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

附則

(大正十一年法律第四十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年一月一日ヨリ施行)

附則

(大正十二年法律第八號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則

(大正十二年法律第二十九號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ受クル貸付信託ノ所得ニシテ從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ信託利益ノ支拂期カ本法施行前ニ在ルモノニ限り大正十二年分第三種所

得トシテ計算ス

附則 (大正十二年法律第四十一號)

本法ハ大正十三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第八號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算セス

第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限り四月一日トス

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル從前ノ規定ニ依ル所得調査委員及補闕員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス

○所得稅法ノ施行ニ關スル件

(大正九年七月三十一日法律第十二號)

改正 大正十年三月三十日法律第十五號
大正十一年三月三十一日法律第二十七號
大正十五年三月二十七日法律第九號

第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス

第二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第三條第一種甲及乙並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第九號改正)

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第十二條ノ規定ヲ準用ス(大正十年法律第十五號及大正十五年法律第九號改正)

第四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣又ハ樺太ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス(大正十年法律第十五號追加及大正十一年法律第二十七號改正)

第五條 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス(同上)

第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣又ハ樺太ニ所得稅 所得稅法ノ施行ニ關スル件

於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セ
ス(同上)

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ
付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ免除ス(大正十年法律第十五號追加)

附則 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十年法律第十五號)

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第三條
改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十一年法律第二十七號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ
適用ス

附則 (大正十五年法律第九號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○所得稅法施行規則

(大正九年七月三十一日勅令第二百二十六號)

改正 大正十年四月一日 日勅令第六十九號

大正十一年三月三十一日勅令第七十一號

大正十二年三月二十九日勅令第七十三號

大正十三年二月二十三日勅令第二十三號

大正十五年三月三十一日勅令第二十九號

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金
ニ之ヲ算入セス(大正十五年勅令第二十九號追加)

第一條ノ二 法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業
年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ所得稅法第二十一條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス(大正十
五年勅令第二十九號ヲ以テ舊勅令第一條ノ二トス)

第二條 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金
額ハ總資産價額ニ對スル所得稅法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス
前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當

ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得ト有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 所得稅法第二十一條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル(大正十五年勅令第二十九號改正)前項ノ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ所得稅法第四條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第五條 所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス(大正十五年勅令第二十九號改正)前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス(同上)

第六條 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル(大正十五年勅令第二十九號改正)前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シ

テ之ヲ計算ス(同上)

第六條ノ二 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請ス(大正十五年勅令第二十九號追加)

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出ス(同上)

第六條ノ三 所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅徵收ノ際之ヲ控除ス(同上)

第六條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者又ハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得(同上)

第七條 所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲ス

ヘシ

所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

第八條ノ二 所得稅法第十五條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス(大正十五年勅令第二十九號追加)

第九條 所得稅法第十六條ノ不具癱疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二 所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セザルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ稅務署長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム(大正十五年勅令第二十九號追加)

第十條 所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齢十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癱疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ(同上)

所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出ス

ルヲ以テ足ル

第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條ノ二 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ所得稅法第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス(大正十三年勅令第二十三號追加及大正十五年勅令第二十九號改正)

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ(大正十三年勅令第二十三號追加)

第十一條ノ三 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十三年勅令第二十三號追加及大正十五年勅令第二十九號改正)

- 一 保險者ノ住所及名稱
- 二 保險ノ種類
- 三 保險金額
- 四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄
- 五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書

所得稅 所得稅法施行規則

ヲ提出スヘシ(同上)

第十一條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得(大正十三年勅令第二十三號追加及大正十五年勅令第二十九號改正)

第十一條ノ五 (大正十五年勅令第二十九號刪除)

第十二條 左ニ掲クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス(大正十二年勅令第七十八號及大正十五年勅令第二十九號改正)

(十九號改正)

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合會、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ
- 二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ

第十三條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
- 二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
- 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロル酸加里及グリセリン

六 製紙用パルプ

七 板硝子

八 コンデンスドミルク

九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十五條 所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第二十四條又ハ第二十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算

著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財產確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ殘餘財產ヲ數回ニ分テテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財產確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 所得稅法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テ

ハ毎年三月十五日限

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十一條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受クル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月

十五日迄ニ異動調書ヲ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第二十二條ノ二 信託ノ受託者ハ左ノ期限ニ從ヒ各信託ノ計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ貸

付信託ニシテ受益者個人ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十一年勅令第五百十三號追加大正十二年勅令第七十八號及大正十五年勅令第二十九號改正)

一 信託會社ニ在リテハ每事業年度終了後二十日限

二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年三月十五日限

第二十二條ノ三 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ(大正十一年勅令第五百十三號追加及大正十五年勅令第二十九號改正)

一 委託者及受益者ノ住所及氏名

二 信託行爲ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月

末日ニ於ケル信託財産ノ種類及現在額並信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サ

ル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間中ニ於ケル信託財産ノ異動

及信託ニ關スル收入支出

三 前各號ニ掲クルモノノ外信託行爲ノ内容ニ關スル事項

第二十三條 第二十條、第二十二條又ハ第二十二條ノ二ニ規定スル調書又ハ計算書ヲ提出シタル者

ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス(大正十一年勅令第五百十三號改正)

一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル調書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五厘

二 第二十二條ノ二ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三錢

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ

提出スヘシ(同上)

第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調查委員會ヲ置クヘキ市ハ大藏大臣

之ヲ指定ス(大正十二年勅令第七十八號改正)

第二十五條 調査委員ノ定數ハ七人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減ス

ルコトヲ得(大正十五年勅令第二十九號改正)

第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘ

シ

第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製

シ副本ヲ市區町村長又ハ戸長ニ送付スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ五日間市區役所、町村役場又ハ戸長

役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ

場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期

日前市區町村長又ハ戸長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前日ヲ以テ確定ス

島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大藏大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラ

ス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 市區町村長又ハ戸長ハ投票區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戸長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ調査委員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 投票ノ調査終リタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

一 投票及開票ノ日時及場所

二 投票及開票ノ立會人ノ住所及氏名

三 投票人及投票ノ總數並有效投票及無效投票ノ數

四 投票ヲ無効ト決定シタル事由

五 被選舉人ノ氏名及其ノ得票數

第三十二條 選舉會ハ豫メ稅務署長ノ公示シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開ク

第三十三條 稅務署長ハ選舉區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ選舉會ニ立會ハシムヘシ

第三十四條 所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者及所得稅ヲ納メスシテ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ納メタル者ノ合計數ニ

從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム(大正十五年勅令第二十九號改正)

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未滿ナルトキ 十日以内

第三十五條 所得調査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齢多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十六條 所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第三十七條 稅務署長所得稅法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第三十八條 所得稅法第五十九條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 所得稅法第六十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ所得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第三十九條ノ二 (大正十五年勅令第二十九號附則)

第四十條 審査委員及其ノ補闕員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十一條 審査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

補闕員ハ稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員之ヲ互選ス

第四十二條 稅務監督局長ハ審審委員及補闕員ノ選舉期日、投票時間及投票場所ヲ定メ之ヲ調査委員ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ之ヲ受クヘキ調査委員ノ屬スル府縣又ハ北海道ニ於ケル調査委員ノ氏名表ヲ添附スヘシ

第四十三條 審査委員及補闕員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ審査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ相當ノ事由ニ因リ自ラ投票所ニ至ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ無効トス

第四十四條 稅務監督局長ハ調査委員中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第四十五條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 審査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第四十七條 審査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ニ當選ノ通知ヲ爲シ

且其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十八條 審査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十九條 審査委員及補闕員ハ稅務監督局所轄内ニ於ケル調査委員全部ノ改選アリタルトキ之ヲ

改選ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

第五十條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕員ヲ以テ之ヲ補充ス

但シ北海道ニ在リテハ補闕員中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ闕員ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ審査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第五十一條 審査委員又ハ補闕員ニシテ調査委員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十二條 所得審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第五十三條 所得審査委員會ハ開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十五條 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中年齡多キ者會長ノ職務ヲ

代理ス

第五十六條 審査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十七條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十八條 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ

第五十九條 稅務監督局長所得稅法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルト

キハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第五十九條ノ二 (大正十五年勅令第二十九號刪除)

第六十條 納稅義務者所得稅法第六十四條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキ

ハ同時ニ所得稅法第六十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第六十一條 所得稅法第六十四條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモ

ノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘ

シ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務

者ニ通知スヘシ

第六十三條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅法第十五條第二項、第十六條第二項、第

二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名

稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第六十五條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及

計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ
尙其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ(大正十二年勅令第七十二號改正)

第六十六條 所得稅法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ稅務署

ニ申告スヘシ申告ナキトキハ稅務署長其ノ納稅地ヲ指定ス

第六十七條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ

ハ其ノ旨居所地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第六十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル

地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十條 納稅義務者所得稅法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務

署ニ申告スヘシ

第七十一條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ

申告スヘシ

第七十一條ノ二 臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ大

正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス(大正十年勅令第六十九號追加及大正十二年勅令第七十一號改正)

臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ臺灣

又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外大正九

年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

- 一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 二 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 三 所得稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第七十二條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令

ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル(大正十年勅令第六十九號改正)

第十四條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第七十三條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造

業ノ營業場所所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ

製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(大正十年勅令第六十九號改正)

第十五條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ所得稅法第十六條ノ規定ノ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル所得稅免除ノ申請及第三種ノ所得ニ關スル申告ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

大正二年勅令第六十九號ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正十年勅令第六十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年勅令第七十一號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年勅令第五百十三號)

本令ハ大正十一年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年法律第四十五號ハ大正十二年一月一日ヨリ施行)

附 則(大正十二年勅令第七十八號)

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十三年勅令第二十三號)

本令ハ大正十三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附 則(大正十五年勅令第二十九號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

所得稅 所得稅法施行規則

所得稅 所得稅法施行規則

第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十五條、第二十條、第二十二條及第二十二條ノ二ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

大正十五年ニ限り第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス

大正十六年ニ限り第三十四條ノ改正規定中營業收益稅トアルハ營業稅トス

○第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
以千二百圓下	一、二〇〇圓	〇・八	六九圓	〇・八	六九圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	一、五〇〇	二	一〇四圓	〇・八	一二圓
千五百圓ヲ超ユルモノ	一、七〇〇	三	一二七圓	〇・八	一三圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、〇〇〇	三	一五三圓	〇・八	一六圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、二〇〇	四	一七五圓	〇・八	一七圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、五〇〇	四	二〇二圓	〇・八	二〇圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、七〇〇	四	二一七圓	〇・八	二一圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	三、〇〇〇	四	二三五圓	〇・八	二四圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	三、二〇〇	五	二五一圓	〇・八	二五圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	三、五〇〇	五	二七三圓	〇・八	二八圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

五〇

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
四、〇〇〇圓	四、〇〇〇圓	五	一二〇圓	〇・八	三二圓
四、五〇〇圓	四、五〇〇圓	五	一四六圓	〇・八	三六圓
五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓	五	一七〇圓	〇・八	四〇圓
五、五〇〇圓	五、五〇〇圓	六・五	二〇三圓	〇・八	四四圓
六、〇〇〇圓	六、〇〇〇圓	六・五	二三三圓	〇・八	四八圓
六、五〇〇圓	六、五〇〇圓	六・五	二六八圓	二	五八圓
七、〇〇〇圓	七、〇〇〇圓	六・五	三〇〇圓	二	六八圓
七、五〇〇圓	七、五〇〇圓	八	三四〇圓	二	七八圓
八、〇〇〇圓	八、〇〇〇圓	八	三八〇圓	三	九三圓
八、五〇〇圓	八、五〇〇圓	八	四二〇圓	三	一〇八圓
九、〇〇〇圓	九、〇〇〇圓	八	四六〇圓	三	一二三圓
九、五〇〇圓	九、五〇〇圓	八	五〇〇圓	三	一三八圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

五一

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓	八	五四〇圓	三	一五三圓
一一、〇〇〇圓	一一、〇〇〇圓	九・五	七三〇圓	四	二三三圓
一二、〇〇〇圓	一二、〇〇〇圓	九・五	八〇〇圓	四	二三三圓
一五、〇〇〇圓	一五、〇〇〇圓	一一	一、〇二五圓	四	三五三圓
一七、〇〇〇圓	一七、〇〇〇圓	一一	一、二三五圓	五	四五三圓
二〇、〇〇〇圓	二〇、〇〇〇圓	一一	一、五六五圓	五	六〇三圓
二五、〇〇〇圓	二五、〇〇〇圓	一三	二、二一五圓	五	八五三圓
三〇、〇〇〇圓	三〇、〇〇〇圓	一三	二、八六五圓	六・五	一、一七八圓
三五、〇〇〇圓	三五、〇〇〇圓	一五	三、六一五圓	六・五	一、五〇三圓
四〇、〇〇〇圓	四〇、〇〇〇圓	一五	四、三六五圓	八	一、九〇三圓
四五、〇〇〇圓	四五、〇〇〇圓	一五	五、一一五圓	八	二、三〇三圓
五〇、〇〇〇圓	五〇、〇〇〇圓	一五	五、八六五圓	八	二、七〇三圓
六〇、〇〇〇圓	六〇、〇〇〇圓	一七	七、五六五圓	九・五	三、六五三圓
七〇、〇〇〇圓	七〇、〇〇〇圓	一七	九、二六五圓	九・五	四、六〇三圓
八〇、〇〇〇圓	八〇、〇〇〇圓	一九	一一、一六五圓	一一	五、六二八圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
九〇,〇〇〇圓	九〇,〇〇〇圓	一九	一三,〇六五圓	一一	六,七二八圓
一〇〇,〇〇〇圓	一〇〇,〇〇〇圓	一九	一四,九六五圓	一一	七,八二八圓
一二〇,〇〇〇圓	一二〇,〇〇〇圓	二一	一九,一六五圓	一三	一〇,四二八圓
一四〇,〇〇〇圓	一四〇,〇〇〇圓	二一	二三,三六五圓	一三	一三,〇二八圓
一六〇,〇〇〇圓	一六〇,〇〇〇圓	二一	二七,五六五圓	一五	一五,八二八圓
一八〇,〇〇〇圓	一八〇,〇〇〇圓	二二	三一,七六五圓	一五	一八,八二八圓
二〇〇,〇〇〇圓	二〇〇,〇〇〇圓	二二	三五,九六五圓	一五	二一,八二八圓
二三〇,〇〇〇圓	二三〇,〇〇〇圓	二三	四二,八六五圓	一五	二六,三二八圓
二六〇,〇〇〇圓	二六〇,〇〇〇圓	二三	四九,七六五圓	一七	三一,〇二八圓
三〇〇,〇〇〇圓	三〇〇,〇〇〇圓	二三	五八,九六五圓	一七	三七,八二八圓
三五〇,〇〇〇圓	三五〇,〇〇〇圓	二三	七〇,四六五圓	一七	四六,三二八圓
四〇〇,〇〇〇圓	四〇〇,〇〇〇圓	二三	八一,九六五圓	一九	五五,八二八圓

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
四五〇,〇〇〇圓	四五〇,〇〇〇圓	二三	九三,四六五圓	一九	六五,三二八圓
五〇〇,〇〇〇圓	五〇〇,〇〇〇圓	二三	一〇四,九六五圓	一九	七四,八二八圓
六〇〇,〇〇〇圓	六〇〇,〇〇〇圓	二五	一二九,九六五圓	二一	九五,八二八圓
七〇〇,〇〇〇圓	七〇〇,〇〇〇圓	二五	一五四,九六五圓	二一	一一六,八二八圓
八〇〇,〇〇〇圓	八〇〇,〇〇〇圓	二五	一七九,九六五圓	二一	一三七,八二八圓
九〇〇,〇〇〇圓	九〇〇,〇〇〇圓	二五	二〇四,九六五圓	二一	一五八,八二八圓
一,〇〇〇,〇〇〇圓	一,〇〇〇,〇〇〇圓	二五	二二九,九六五圓	二一	一七九,八二八圓
一,二〇〇,〇〇〇圓	一,二〇〇,〇〇〇圓	二七	二八三,九六五圓	二三	二二五,八二八圓
一,四〇〇,〇〇〇圓	一,四〇〇,〇〇〇圓	二七	三三七,九六五圓	二三	二七一,八二八圓
一,六〇〇,〇〇〇圓	一,六〇〇,〇〇〇圓	二七	三九一,九六五圓	二三	三一七,八二八圓
一,八〇〇,〇〇〇圓	一,八〇〇,〇〇〇圓	二七	四四五,九六五圓	二三	三六三,八二八圓
二,〇〇〇,〇〇〇圓	二,〇〇〇,〇〇〇圓	二七	四九九,九六五圓	二三	四〇九,八二八圓
二,二〇〇,〇〇〇圓	二,二〇〇,〇〇〇圓	三〇	五五九,九六五圓	二三	四五五,八二八圓
二,四〇〇,〇〇〇圓	二,四〇〇,〇〇〇圓	三〇	六一九,九六五圓	二三	五〇一,八二八圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

算出方法		
稅額ヲ算出セムトスル所得金額ニ本表ノ「乘率」ヲ乘シタル金額ヨリ當該欄ノ「控除額」ヲ控除シタルモノカ稅額ナリ		
所得金額	乘率	控除額
自圓 至圓	%	圓 錢
1.....1,200	0.8	0
1,201.....1,500	2	14.40
1,501.....2,000	3	29.40
2,001.....3,000	4	49.40
3,001.....5,000	5	79.40
5,001.....7,000	6.5	154.40
7,001.....10,000	8	259.40
10,001.....15,000	9.5	409.40
15,001.....20,000	11	634.40
20,001.....30,000	13	1,034.40
30,001.....50,000	15	1,634.40
50,001.....70,000	17	2,634.40
70,001.....100,000	19	4,034.40
100,001.....200,000	21	6,034.40
200,001.....500,000	23	10,034.40
500,001.....1,000,000	25	20,034.40
1,000,001.....2,000,000	27	40,034.40
2,000,001.....3,000,000	30	100,034.40
3,000,001.....4,000,000	33	190,034.40
4,000,001.....以上	36	310,034.40

區所得金額		最高稅率	山林以外ノ所得稅額	對所得金額ニ付圓割合ニ	區所得金額		最高稅率	山林ノ所得稅額	對所得金額ニ付圓割合ニ
所得金額	所得金額				所得金額	所得金額			
二、六〇〇、〇〇〇圓	二、八〇〇、〇〇〇圓	三〇	六七九、九六五圓	二六・一五	二、六〇〇、〇〇〇圓	三〇	五四九、八二八圓	二一・一四	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	七三九、九六五圓	二六・四二	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	五九九、八二八圓	二一・四二	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	七九九、九六五圓	二六・六六	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	六四九、八二八圓	二一・六六	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	八六五、九六五圓	二七・〇六	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三〇	六九九、八二八圓	二一・八六	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	九三一、九六五圓	二七・四一	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	七四九、八二八圓	二二・〇五	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	九九七、九六五圓	二七・七二	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	七九九、八二八圓	二二・二一	
三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	一、〇六三、九六五圓	二七・九九	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	八四九、八二八圓	二二・三六	
四、〇〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	一、一二九、九六五圓	二八・二四	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三三	八九九、八二八圓	二二・四九	
四、〇〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	一、二七三、九六五圓	二八・九五	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	九九九、八二八圓	二二・七二	
四、〇〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	一、三四五、九六五圓	二九・二六	四、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	一、〇四九、八二八圓	二二・八二	
五、〇〇〇、〇〇〇圓	五、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	一、四八九、九六五圓	二九・七九	五、〇〇〇、〇〇〇圓	三六	一、一四九、八二八圓	二二・九九	

第三種所得稅額速算表(山林所得ノ分)

稅額ヲ算出セムトスル所得金額ニ本表ノ「乘率」ヲ乘シ
算出方法 タル金額ヨリ當該欄ノ「控除額」ヲ控除シタルモノカ稅額ナリ

所得金額	乘率	控除額
自 圓 至 圓 1.....6,000	% 0.8	圓 0
6,001.....7,500	2	72
7,501.....10,000	3	147
10,001.....15,000	4	247
15,001.....25,000	5	397
25,001.....35,000	6.5	772
35,001.....50,000	8	1,297
50,001.....75,000	9.5	2,047
75,001.....100,000	11	3,172
100,001.....150,000	13	5,172
150,001.....250,000	15	8,172
250,001.....350,000	17	13,172
350,001.....500,000	19	20,172

○所得稅法施行細則(大正十年五月十一日大藏省令第十四號)

改正 大正十年九月五日 日大藏省令第三十三號
 同 年十月二十八日同 第三十八號
 大正十一年三月三十一日同 第二十六號
 同 年四月十三日同 第三十九號
 大正十二年三月十日同 第六號
 同 年三月三十一日同 第八號
 同 年四月三十日同 第十二號
 大正十三年三月二十四日同 第七號
 同 年五月二十三日同 第十四號
 同 年十一月二十九日同 第二十六號
 大正十四年五月一日同 第十五號
 大正十五年四月一日同 第十五號
 同 年七月十四日同 第二十七號
 同 年九月十七日同 第三十六號

第一條 所得稅法施行規則第六十五條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ、
 明細書ハ第四號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ第二種ノ所得ニ付所得稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂
 込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添付シ之ヲ歲入徵收官ニ
 送付スヘシ(大正十一年省令第二十六號改正)

第三條

第二種ノ所得ニ付所得稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事山ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

第四條

所得稅法施行規則第二十條乃至第二十二條ノ三ノ規定ニ依ル支拂調書及計算書ハ第五號書式ニ依リ調製スヘシ(大正十二年省令第八號改正)

第五條

左記區域ニ付テハ所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ三十日ヲ六十日以内ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル日トシ第二項ノ二十日ヲ村長又ハ戶長ノ適當ト認ムル日トス(大正十五年省令第三十六號改正)

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	域
東	京幸橋	小笠原島	
		伊豆七島	
札	幌檜	奧尻郡 奧尻村	
	增	苫前郡 燒尻村、天賣村	
	宗	利尻郡 鬼脇村、仙法志村、鶯泊村、杏形村	
	根	禮文郡 船泊村、香深村	
	室	花咲郡 齒舞村	
		國後郡 泊村、留夜別村	
		色丹郡 斜古丹村	
		紗那郡 紗那村	
		擇捉郡 留別村	
		藥取郡 藥取村	

熊

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	域
熊	本那	鳥尻郡 渡嘉敷村、座間味村、伊平屋村、粟國村、渡名喜村	
	八重山	八重山郡 與那國村	
	大島	大島郡 喜界村、早町村、龜津村、伊仙村、天城村、東天城村、知名村、和泊村、與論村、十島村	
	宮古	宮古郡 多良間村	

前項ノ區域ニ於ケル所得稅法施行規則第二十七條第三項ノ規定ニ依ル異議ノ申立ハ村長又ハ戶長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

村長又ハ戶長前項ノ申立ヲ受ケタルトキハ證憑ヲ審査シ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ノ副本ヲ修正シ其ノ事由ヲ具シテ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

稅務署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉人名簿ノ正本ヲ修正スヘシ

第六條

左記區域ニ付テハ所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ三十日ヲ四十日トシ第二項ノ二十日ヲ二十五日トス(大正十三年省令第二十六號及大正十五年省令第三十六號改正)

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	域
大	阪中	幡多郡 沖ノ島村	
仙	臺石	卷 壯鹿郡 荻濱村、鮎川村、女川町	
	酒	田 飽海郡 飛鳥村、	

名古屋	宇治山田	志摩郡	神島村
廣島	岩上	岩船郡	栗島浦村
宇和島	國	大島郡	平郡村
		北宇和郡	戸島村、日振島村

第七條 所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ規定ニ依ル選舉人名簿ハ第六號書式ニ依リ調製スヘシ

第八條 所得調查委員及其ノ補闕員又ハ所得審査委員及其ノ補闕員ノ選舉投票用紙ハ第七號又ハ第八號書式ニ依リ調製スヘシ

第九條 所得稅法第二十八條、同法施行規則第二十四條及第二十五條ノ規定ニ依リ所得調查委員會ヲ置クヘキ區域及調査委員ノ定數ハ別表ニ依ル

第十條 亞米利加合衆國(「アラスカ」布哇及「ヴァージン、アイランド」ヲ含ム)ニ船籍ヲ有スル船舶ノ大正十三年七月十八日以後ニ生スル所得ニ對シテハ大正十三年法律第六號ニ依リ其ノ所得稅ヲ免除ス(大正十五年省令第二十七號追加)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年大藏省令第三十六號明治四十二年大藏省令第五十三號同第五十四號及大正九年大藏省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分(大正十一年省令第二十六號改正)橫三寸三分)

第二種所得稅拂込書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	所得稅	第 二 種 稅
Y		何稅務署
頭書ノ金額拂込候也		
何縣何市長		
何 某團		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
日本銀行何店宛		
大正何年何月何日		

備考

一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

領 收 證 書

第 何 號	何 年 度	第二種所得稅
何縣何市長		
何 某 納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		圓
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店團		

備考

一、日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

所得稅 所得稅法施行細則

通 知 書

第 何 號	何 年 度	大藏省主管
租 稅	所 得 稅	第 二 種 所 得 稅
何縣何市長		
何 某 納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		圓
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店團		
何稅務署長官氏名殿		

所得稅 所得稅法施行細則

第二號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分二枚接續)(大正十一年省令第二十六號改正)

第三號書式甲 (用紙縱五寸八分、横五寸五分) (大正十二年省令第十二號及大正十五年同令第十五號改正)

大正何年何月分
第二種所得稅徵收高計算書

貸付信託以外ノ分

區分	支拂ヘキ金額	支拂濟金額		支拂未濟金額	稅額	摘要
		課稅	非課稅			
何公債利子	圓	圓	圓	圓	圓	
何社債利子						
配當						
賞與						
銀行預金利子	定期預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	當座預金					
計						
合計						

大正何年何月何日

何縣、市、町、村又ハ何會社

備考

- 一、支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
- 二、非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

第三號書式乙 (用紙縱五寸五分)

大正何年何月分

第二種所得稅徵收高計算書

貸付信託ノ分

摘要	額		稅		支拂未濟金額		支拂濟金額		支拂ヘキ金額
	差引稅額	第壹種稅額	管初算內控除シタル第壹種所得稅額	管初算內控除シタル第貳種所得稅額	支拂未濟金額	非課稅	支拂濟金額	課稅	
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

第三號書式乙 (用紙縱五寸五分) (大正十二年省令第十二號及大正十五年同令第十五號改正)

備考

- 一、支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
- 二、控除シタル第貳種所得稅額欄ニハ所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ控除シタル第貳種所得稅額ヲ記載スルモノトス
- 三、非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

所得稅 所得稅法施行細則

大正何年何月何日
何々信託會社

所得稅 所得稅法施行細則

- 後調書提出迄ノ間ニ於テ支給ヲ受ケサルニ至リタル者ニ付テハ本年分支拂金額
 (ハ) 轉勤等ノ場合ニ於テハ新支拂者ニ於テ轉勤前ノ支拂金額ヲモ記載スルモノトス
 三、賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ調書提出當時在勤セサル者ノ分ヲモ記載スルモノトス
 四、賞與ノ支拂確定月日ハ備考ニ記載スルモノトス
 五、年金、恩給及退職料ニシテ代理受領ニ係ルモノニ付テハ其ノ受領者ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス
 六、稅務署長ノ承認ヲ得タルトキハ本様式ト異ナリタル様式ニ依リ調製スルコトヲ得

第五號書式乙 (用紙半紙判) (大正十五年省令第十五號ヲ以テ賞與金支拂調書ヲ例リ丙チ乙ニ改ム)

何年何期分利益(利息)配當支拂調書

年 月 日

何會社代表者 氏 名 印

- 一、配當金總額
 内無記名式株式ニ對スル分
 一、株式數 舊株 新株
 (出資金額又ハ基金)
 一、一株ノ額面金額
 一、同拂 込濟金額 舊株 圓新株
 一、配當率
 一、一株ノ配當金額 舊株 圓新株

一、支拂金額ノ確定シタル月日

内譯

株式數(出資金額又ハ基金)	配當金額	摘要	住所又ハ居所		氏名
			支拂ヲ受ケル者	氏名	
新株	圓				
舊株					

備考

- 一、摘要欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スルモノトス
 (イ) 優先株ニ付テハ其ノ優先權ニ基ク配當率ノ增加額
 (ロ) 出資金額ノ割合ニ異ル持分計算ニ依リ利益ノ配當ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ持分ノ割合
 (ハ) 所得稅法第十四條第二項ニ依リ利益ノ配當ト看做サルル金額ニ付テハ其ノ支拂ヲ受ケル者力退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受ケル金額又ハ株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受ケル金額
 二、所得稅法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セサル者ニ對スル内譯ハ別紙ニ記載シテ添付スルモノトス
 三、無記名式株式ニ付テハ本書式ノ内譯ヲ要セサルモノトス

所得稅 所得稅法施行細則

所得稅 所得稅法施行細則

- (ロ) 金錢以外ノ收入及支出ハ之ヲ金錢ニ換算シテ記載スルコト
- (ハ) 信託財産ノ處分ニ依リ生シタル損益ハ他ノ收入及支出ト區分記載スルコト但シ賣買代金ハ記載スルヲ要セス
- (ニ) 支出ニ付テハ信託報酬、租稅公課、營繕費等其ノ科目ヲ當該備考欄ニ記載スルコト
- 三、信託財産ハ左ノ各號ニ依リ記載スルモノトス
 - (イ) 有價證券ニ在リテハ種類欄ニ「何會社株式」「何會社社債」ノ如ク所在地欄ニ發行者ノ住所ヲ記載スルコト但シ其ノ種類ニ依リ發行者ノ住所ヲ知得セラルルモノニ在リテハ所在地ノ記載ヲ省略スルモ妨ケナシ
 - (ロ) 金錢債權ニ在リテハ一契約毎ニ記載シ其ノ利率及契約期間ヲ備考欄ニ記載スルコト
 - (ハ) 不動産ニ在リテハ田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地、池沼、山林、牧場、原野、雜種地、建物、立木等ニ區分記載スルコト
 - (ニ) 動産ニ在リテハ其ノ品目毎ニ記載シ所在地ノ記載ヲ要セス
 - (ホ) 事業年度末(信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日)ニ現存セサル信託財産ニ付テハ其ノ處分年月日ヲ備考ニ記載スルコト
 - (ヘ) 事業年度(信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間)中ニ收入及支出ナキ信託財産ニ付テハ其ノ信託財産ノミヲ記載シ收入及支出欄ニ斜線ヲ施スコト
 - (ト) 新ニ信託行爲ニ依リ受入レタル信託財産ニ付テハ其ノ受入ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スルモノトス

四、摘要欄ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- (イ) 受益者ニ交付シタル信託財産ノ種類、數量及其ノ時期
- (ロ) 信託財産ヨリ生スル利益ノ受益者數人アル場合ニ於テ其ノ利益ヲ受クル割合ヲ異ニスル者アルトキハ其ノ割合
- (ハ) 受託者ノ受クヘキ報酬額又ハ其ノ計算方法、支拂義務者及支拂ノ時期
- (ニ) 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ノ割合其ノ他之ニ關スル事項
- (ホ) 受益者ノ異動アリタルモノニ付テハ其ノ原因及異動ノ時期
- 五、所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本様式ト異リタル様式ニ依リ調製スルコトヲ得

第六號書式 (用紙半紙判)

住居所氏	名	摘	要

備考

一、名簿調製後之ヲ修正シタルモノ及選舉當日迄ニ所得稅法第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノハ其ノ事由及年月日ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

所得稅 所得稅法施行細則

所得稅 所得稅法施行細則

二、名簿ノ表紙ハ左ノ通調製スルモノトス

何年何月何日現在調

所得調査委員及補闕員選舉人名簿

正本(副本何郡何村分)

何 稅 務 署 長 印

第七號書式

被選舉人	所得調査委員、所得調査委員補闕員「選舉投票	何市役場之印
------	-----------------------	--------

備考

一、調査委員ノ投票用紙ハ黒刷、補闕員ノ投票用紙ハ赤刷トス

第八號書式

被選舉人	何稅務署所轄所得調査委員	何稅務監督局之印
------	--------------	----------

備考

一、審査委員ノ投票用紙ハ黒刷、補闕員ノ投票用紙ハ赤刷トス

(別表) 所得調査委員會設置區域及定數表

沿革 大正十年九月大藏省令第三十三號、同年十月同第三十八號、大正十一年四月同第三十九號、大正十二年三月同第六號、大正十三年三月同第七號、同年五月同第十四號、同年十一月同第二十六號、大正十四年五月同第十五號及大正十五年九月同第三十六號改正

東	神田橋	永代橋	京橋	幸橋	四谷橋	水道橋	既橋	兩國橋
稅務監督局	稅務署	調查委員會ヲ置クヘキ區域	調查委員ノ定數	稅務監督局	稅務署	調查委員會ヲ置クヘキ區域	調查委員ノ定數	調查委員ノ定數
十	十	一	三	九	十	十	十	十
人	人	人	人	人	人	人	人	人

所得稅 所得稅法施行細則

淀玉北南西東	館桐沼中 高 前 境下土龍麻松 之 崎 橋 館浦崎生原 林生田條
川造	郡桐 郡高 郡前 生 崎 橋 部市 部市 部市
十 十 十 十 十	七 六 六 六 五 七 八 七 六 九 九 八 七 六
三 三 四 四 二	一
人 人 人 人 人 人	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

大

明 伊 西 神 峰 宮 福 園 伏 下 上 住 富 岸 堺 茨 知 田 和 田 木	郡明 郡尼 郡西 石 崎 宮 部市 部市 部市	郡京 郡京 都 都 市 市 下 上 京 京 部區 部區	郡岸 郡堺 和 田 部市 部市
六 六 八 七 十 七 十 六 七 七 九 五 十 四 八 七 七 六 七 八 九			

五

四 三

人 人

千粕忍熊秩川浦小大藤橫川橫八青龜板淀品 葉壁 谷父越和原磯澤 賀 崎 濱 子 梅 戶 橋 橋 川	郡千 郡川 郡橫 郡川 郡八 葉 越 須 王 部市 部市 部市 部市 部市
九 六 八 八 八 六 九 五 九 八 七 八 六 七 七 五 八 六 七 十 十 十	
三 四 四 三	
人 人	

京

太 水 足 大 栃 眞 鹿 宇 都 韭 鯨 甲 北 木 茂 東 銚 佐 松 田 戶 利 原 木 岡 沼 宮 留 崎 澤 府 條 津 原 金 子 原 戶	郡水 郡足 郡宇 郡甲 戶 利 宮 府 部市 部市 部市 部市
七 七 六 七 六 八 九 七 七 六 七 七 六 六 八 七 七 七 八 七 七 七 九	

人 人

札		
小壽檜函札	安赤須中高池脇撫那德高	
樽郡山館幌	藝岡崎村知田町養賀島松	
郡小 郡函 郡札	郡高 郡德 郡高	
樽 館 幌	知 島 松	
部市 部市 部市	部市 部市 部市	
七九四五六九六九	六六七六七七六五六七七七七七	
人人人人人人	人人人人人人人人人人人人	
仙		幌
盛大志石築古仙	根河釧網浦室宗增名上瀧空	
河津	室西路走河蘭谷毛寄川川知	
岡原川卷館川臺		
郡盛 郡仙	郡釧 郡室 郡旭	
岡 臺	路 蘭 川	
部市 部市	部市 部市 部市	
六七六五七七七七九	六七五六七五六六六六六七七七七	
人人人人人人	人人人人人人人人人人人人	

水大新田御湯粉和吉葛奈洲柏和豐上龍姬加社				
口津宮邊坊淺河山野城良本原山岡郡野路川				
郡大	郡和	郡奈	郡姬	
津	歌	良	路	
部市	部市	部市	部市	
六七六六六六六	七七八六九七七七	八六七六七八八七	七	
人人人人人人	人人人人人人	人人人人人人	人人人人	
阪				
土長丸出高魚富輪七小金小敦武大福今長彦八				
庄尾龜町岡津山島尾松澤濱賀生野井津濱根幡				
郡丸 郡高 郡富	郡金	郡福		
龜 岡 山	澤	井		
部市 部市 部市	部市	部市		
六六九六九七六八七八六	七七九六六	六七七五	七七七	
人人人人人人	人人人人	人人人人	人人	

所得稅
所得稅法施行細則

米倉	鳥	英	津	久	新	高	笠	玉	倉	味	西	瀨	岡	萩	下			
子	吉	取	田	山	世	見	梁	岡	島	敷	野	寺	戶	山	關			
		郡											郡		郡			
		取											山		關			
		部											部		部			
八	七	七	六	七	八	六	五	六	七	七	八	八	八	六	六	八	七	九

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

島

熊	宇	卯	八	大	新	今	松	西	益	濱	川	大	今	大	松			
本	和	之	幡				山	鄉	田	田	本	森	市	東	江			
郡	郡				郡	今	郡								郡			
	和				治		山								江			
	島				部		部								部			
部	部				部		部								部			
市	市				市		市								市			
九	七	六	六	七	七	八	六	六	八	七	五	六	六	五	六	七	七	七

八三

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

屋

相	村	糸	高	柏	十	小	長	三	卷	新	新	中	大	松	西	飯			
川	上	魚	田	崎	日	千	岡	條		發	湯	野	町	本	筑	田			
			郡				郡				郡			郡					
			高				長				新			松					
			田				岡				湯			本					
			部				部				部			部					
七	六	六	八	六	七	五	七	七	八	七	八	八	九	八	六	九	七	五	七

所得稅
所得稅法施行細則

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

廣

厚	三	德	岩	山	庄	三	府	福	尾	忠	西	吉	可	吳	廣			
狹	尻	山	國	口	原	次	中	山	道	海	條	田	部		島			
郡								郡	郡					郡	郡			
								福	尾					吳	廣			
								山	道						島			
								部	部					部	部			
部								市	市					市	市			
市								部	部					部	部			
八	六	七	七	八	七	六	六	七	七	六	六	六	六	七	六	八	六	十

八二

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

○復興貯蓄債券法(抄錄) (大正十三年七月二十二日法律第十五號)

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス

○外國船舶ノ所得稅免除ニ關スル件 (大正十三年七月十八日法律第六號)

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所有ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○產業組合法(抄錄) (明治三十三年三月七日法律第三十四號)

第六條 產業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

第八十一條 產業組合聯合會ニハ(中略)產業組合ニ關スル規定ヲ準用ス(以下略)

第九十二條 第六條(中略)ノ規定ハ產業組合中央會ニ之ヲ準用ス(以下略)

○產業組合中央金庫法(抄錄) (大正十二年四月六日法律第四十二號)

第八條 (第一項) 產業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第十七條 產業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ產業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在

高割引手形現在高及其所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

產業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ產業債券ニ付之ヲ準用ス

○住宅組合法(抄錄) (大正十年四月十二日法律第六十六號)

第十六條 (第二項) 產業組合法ハ第(中略)條ノ規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

(參照產業組合法第六條ハ準用セラルルコトナル)

○輸出組合法(抄錄) (大正十四年三月三十日法律第二十七號)

第三十三條 產業組合法第六條(中略)ノ規定ハ輸出組合ニ付之ヲ準用ス(但書略)

○重要輸出品工業組合法(抄錄) (大正十四年三月三十日法律第二十八號)

第三十八條 產業組合法第六條(中略)ノ規定ハ工業組合ニ付之ヲ準用ス(但書略)

○漁業法(抄錄) (明治四十三年四月二十一日法律第五十八號)

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

○農業倉庫業法(抄錄) (大正六年七月二十一日法律第十五號)

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

○製鐵業獎勵法(抄錄) (大正十五年三月三十一日法律第四十九號)

第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製鐵能力及一年三萬五千噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル

所得稅 住宅組合法 輸出組合法 重要輸出品工業組合法 漁業法
農業倉庫業法

設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル鍛鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低燐銑鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項

ニ同シ

第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年四月九日勅令第五十七號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本法施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間トアルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

參照 (從前ノ規定トハ大正六年七月法律第二十七號製鐵業獎勵法ヲ謂フ)

○軍事救護法抄錄(大正六年七月二十日法律第一號)

第十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル救護金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

地租

地租とは、土地の所有者が土地を他人に貸与する際に、借り手が土地の生産物や利益の一部を支払うことを指す。これは、土地の所有権と使用権の分離を前提とする。地租の形態は、金銭、实物、労務などに分類される。また、地租は、土地の生産力や需要の増減によって変動する。歴史的には、地租は社会の発展と密接に関連している。現代では、地租は都市開発や不動産市場の重要な要素となっている。

◎地租

○地租條例(明治十七年三月十五日第七號布告)

- 改正 明治二十二年十一月三十日法律第三十號
明治三十一年十二月三十日法律第三十二號
明治三十四年四月十三日法律第三十號
明治三十五年十二月二十六日勅令第二百七十五號
明治三十六年六月十七日法律第十二號
明治三十六年十二月十日勅令第二百七十八號
明治三十八年三月一日法律第三十三號
明治三十九年四月十一日法律第三十三號
明治四十一年三月三十一日法律第三十六號
明治四十三年三月二十五日法律第二十二號
大正三年三月三十一日法律第十八號
大正三年三月三十一日法律第十九號
大正八年四月十日法律第四十六號
大正十五年三月二十七日法律第六號

地租 地租條例

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス
 但東京府管轄伊豆七島小笠原島ハ當分從前ノ通タルヘシ(明治三十五年勅令第二百七十五號、明治三十六年勅令第二百七十八號及明治三十九年法律第三十三號ノ爲ニ自然變更)
 右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス(明治三十二年法律第三十號、明治三十一年法律第三十二號、明治四十三年法律第二號及大正三年法律第十八號改正)

宅地 地價百分ノ二箇半

田畑 地價百分ノ四箇五

其他ノ土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田畑 地價百分ノ三箇二

其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地(明治四十三年法律第二號改正)

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(明治三十二年法律第三十號改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ(明治四十三年法律第二號追加)

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス(明治三十二年法律第三十號、明治三十八年法律第三十三號及大正十五年法律第六號改正)

一 國府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス(明治四十三年法律第二號改正)

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地(明治四十一年法律第三十六號及大正三年法律第十九號改正)

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

(明治四十一年法律第(六十五)號法律第(三十六)號第三項追加(六十六)號第三項修正)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス(明治四十二年法律第(三十)號及(四十三)號法律第(二)號修正)

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(明治二十二年法律第(三十)號修正)

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス(明治四十二年法律第(三十)號及(四十三)號法律第(二)號修正)

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓畝下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ(明治二十二年法律第(三十)號及(四十三)號法律第(二)號修正)

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス(明治四十三年法律第(二)號修正)

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期

其年七月一日ヨリ

地租額二分ノ一

第二期

同七月三十一日ヨリ
翌年一月一日ヨリ

地租額二分ノ一

二 田

第一期

其年十二月十六日ヨリ

地租額四分ノ一

第二期

翌年二月一日ヨリ

地租額四分ノ一

第三期

同二月末日限
翌年三月一日ヨリ
同三月三十一日限

地租額四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ
同五月三十一日限

地租額四分ノ一

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ
同九月三十日限

地租額二分ノ一

第二期 其年十一月一日ヨリ
同十一月三十日限

地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得(明治三十二年法律第三十八年法律(明治四十三年法律第三十三號修正)(明治三十二年法律第三十三號修正)(明治三十二年法律第三十三號修正)

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ(明治三十八年法律第三十三號修正)

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ納ムヘキ者(法入ヲ除ク)ノ住所都市町村及其隣接市町村内

ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依

リ其田畑ノ地租ヲ徵收セス但小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此限ニ在ラス(大正十五年法律第六號追加)

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租

ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其

事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地

租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其納期分ノ

地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年期

明ノ場合ニ之ヲ準用ス(明治四十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ(明治二十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ二十一年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地價換ヲ爲

シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修正ス(明治二十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下

年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ歛下年期

ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及(明治四十二年法律第三十號修正)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス(明治三十二年法律第三十號追加)(正) 三年法律第十九號及大正八年法律第四十六號改正)

地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(明治三十二年法律第三十號追加)(大正八年法律第四十六號改正)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾後下期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號追加)(明治四十二年法律第三十號改正)

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號追加)

第十八條 (明治三十二年法律第三十號改正) 前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號追加)

第十九條 免租年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ免租年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ(同上追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價

年期ヲ定メ免租年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上改正)

第二十二條 低價免租年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セ

ス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス(同上及明治四十二年法律第三十號改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其

年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内

免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖、

ニ歸スルモノトス(同上改正)

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋

問スルコトヲ得(明治四十二年法律第二號追加)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ

依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第三十號修正及明治四十二年法律第三十號改正)

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地

價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第三十號修正及明治四十二年法律第三十號改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年

以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附 則 (明治三十八年法律第三十三號)

本法中第十三條第一項第二號ハ明治三十八年分地租ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年法律第四號及明治三十三年法律第十九號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (明治四十二年法律第三十六號)

本法ハ明治四十一年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (明治四十二年法律第二號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス
非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十三年分地租限之ヲ廢止ス
本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

附 則 (大正三年法律第十八號)

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (大正八年法律第四十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年五月勅令第二百六十二號ヲ以テ大正八年六月一日ヨリ施行)

本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十五年法律第六號)

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○地租條例施行規則(明治四十三年十二月二十一日勅令第四百四十四號)

改正 大正八年五月三十一日勅令第二百六十三號

大正十五年五月三十一日勅令第三百三十九號

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

一 別地目ト爲ルトキ

- 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
- 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
- 四 所有者ヲ異ニスルトキ
- 五 質權ノ目的ト爲ルトキ
- 六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- 七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後二十年以内又ハ開墾歛下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ歛下年期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ歛下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率方舊地目ノ稅率ト同一ナラザルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ

變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ歛下年期、地價據置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號

ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

- 一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地、運河用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ

(大正八年勅令第二百六十三號第二項削除)

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ年期滿了後六十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

- 一 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ

二 低價年期又ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ

三 歛下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明トナリタルトキ

第十五條ノ二 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス
第十七條 大正十五年法律第四十七號ニ規定スル永小作權者ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市區町村長ニ届出ツヘシ(大正十五年勅令第二百三十九號追加)

- 一 永小作權ノ目的タル田畑ノ番號、地目、段別及地價
 - 二 田畑所有者ノ住所氏名
 - 三 永小作權設定年月日
- 前項ノ届出期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一項又ハ前項ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證明スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ届出ヲ爲シタル永小作權者ハ當該田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ所有者ト看做ス

第十八條 田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(前條ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月申(鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ在リテハ三月中)ニ當該田畑各筆ノ番號及地目ヲ記載シ住所地ノ市町村長ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ但シ其ノ住所地及隣接市町村内ニ於ケル其ノ者ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得(同上)

前項ノ申請期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十九條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者ノ住所カ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ地價合計金額ヲ前條第一項ノ申請期間内ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ(同上)前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十條 隣接市町村内ノ田畑ニ付第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ申請者ノ住所都市町村及其ノ隣接市町村内ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ住所地ノ市町村長ハ其ノ旨田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ(同上)

前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十一條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付第十八條ノ申請又ハ前條ノ通知アリタルトキハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ヲ調査シ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ(同上)

附 則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(大正八年勅令第二百六十三號)

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地租條例第十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則

(大正十五年勅令第三百二十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

田畑地租ノ納期カ六月一日ヨリ開始スル地方ニ在リテハ大正十五年六月一日ニ於ケル田畑地租ノ納稅義務者ハ大正十五年ニ限リ第十八條第一項ノ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

○地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル

公共團體及期間指定ノ件(明治三十八年五月十日勅令第五百五十九號)

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

府縣組合、郡組合 水利組合、水利組合聯合

市町村組合、町村組合、市町村學校組合及町村學校組合

市町村内ノ區 學區

沖繩縣ノ區及區内ノ部 北海道地方費

北海道ノ區及區町村内ノ部 北海道士功組合

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルト

キヨリ一箇年トス

○地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關ス

ル件(明治四十四年四月八日勅令第九十二號)

地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期左ノ如シ

北海道

一 宅地

第一期 其ノ年七月一日ヨリ

第二期 翌年一月十日ヨリ

二 其ノ他ノ土地

同二月末日限リ

地租額二分ノ一

地租額二分ノ一

第一期 其ノ年十月一日ヨリ

第二期 翌年四月一日ヨリ

地租額二分ノ一

地租額二分ノ一

鹿兒島縣太島郡

○ 十島村

其ノ他ノ各村 翌年五月一日ヨリ

沖繩縣

那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一 宅地、田

其ノ年八月一日ヨリ

二 其ノ他ノ土地 翌年五月三十一日限

地租額全部

地租額全部

宮古郡、八重山郡

宮古郡平良村字

鹽川、仲筋、水納

八重山郡八重山

村字波照間、與

那國

其ノ他ノ地方

翌年五月一日ヨリ

同七月三十一日限

地租額全部

地租額全部

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

一 宅地	翌年三月一日ヨリ	地租額全部
二 田	同三月三十一日限	地租額全部
三 畑	其ノ年六月一日ヨリ	地租額二分ノ一
第一 期	同六月三十日限	地租額二分ノ一
第二 期	翌年五月三十一日ヨリ	地租額二分ノ一
第四 地	翌年五月三十一日ヨリ	地租額全部
附 則	同五月三十一日限	

本令ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス但沖繩縣那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡及國頭郡ニ於ケル明治四十四年分畑租ハ明治四十五年三月一日ヨリ同三十一日限及五月一日ヨリ同三十一日限ノ兩期ニ其ノ二分ノ一宛ヲ徵收ス

○ 佃下年期新開免租年期地價据置年期ノ延長ニ

關スル法律(明治三十四年四月十三日法律第三十號)

地租條例ニ依リ佃下年期、新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾佃下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓佃下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免

租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附 則

本法ハ本法施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス

地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○ 開墾地開拓地新開地年期繼續ニ關スル法律

(明治三十四年四月十三日法律第三十一號)

開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ佃下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ニ對シ荒地新租年期又ハ低價年期ヲ許可シタルトキハ其ノ期間ハ地租條例第十六條第二項ノ十年中ニ又ハ佃下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ算入セス

附 則

本法ハ開墾著手後九年以内ニ又ハ佃下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ荒地免租年期又ハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其ノ年期明ニ至リ未タ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲ササルモノニモ之ヲ適用ス

○ 舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタ

ル田畑ノ地租免除ニ關スル法律(大正十五年三月三十一日法律第四十七號)

地租 開墾地、開拓地新開地年期繼續ニ關スル法律

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做ス明治三十七年法律第十二號第三條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○災害地地租免除法(大正三年二月二十日法律第一號)

第一條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ

地租ハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ノ申請ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 地目變換若ハ開墾成功ノ届出アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ地價ノ配當ノ申出アリタル土地ニシテ土地臺帳ニ登錄セラレサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ現地租ニ

付前條ノ規定ヲ準用ス但シ耕地整理ノ場合ニ於テ免除スヘキ地租ノ金額ハ配賦スヘキ地價ニ依リ

算出シタルモノトス

第三條 被害ノ調査中ハ其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セ

ス

附則

第五條 本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

第七條 本法ハ本法施行前一年内ニ北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ

收穫皆無ニ歸シタル田畑又ハ第二條ニ該當スル土地ノ地租ニ之ヲ適用ス但シ明治三十四年法律第

二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依リ地租ノ免除又ハ年賦延納ヲ出願シ不許可ト爲リタル

モノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ大正三年五月三十一日限リ被害ノ事實ヲ證明シ

テ之ヲ申請スルコトヲ要ス但シ明治三十四年法律第二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依ル

地租ノ免除又ハ年賦延納ノ出願ハ本法ニ依ル地租ノ免除ノ申請ト看做ス

第八條 明治三十六年法律第三號ニ依リ許可シタル延納年賦金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免

除ス

○災害地地租免除法施行方ノ件(大正三年三月二十三日大藏省令第五號)

第一條 災害地地租免除法ニ依リ地租免除ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事由、土地ノ番

號、地目、段別及地價ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄稅務署長ニ申請スヘシ但シ段別及地價ニ付テ

ハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ

第二條 前條ノ申請ヲ爲ストキハ收穫皆無ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ作毛ノ存置ヲ爲スコトヲ要ス但シ所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 災害地租免除法ニ依リ耕地整理ノ場合ニ於ケル免除スヘキ地租額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

- 一 換地ノ全部ニ被害アリタルトキハ現地租額ニ相當スル金額
- 二 換地ノ一部ニ被害アリタルトキハ其ノ部分ニ相當スル地價ヲ見積リ其ノ見積地價ト換地ノ全部ニ配賦スヘキ地價トノ割合ニ依リ現在稅額ニ對シ算出シタル金額

第四條 災害地租免除法ニ依リ免除スヘキ地租ハ免除處分ノ時期如何ニ拘ラス被害ノ年ノ一年分地租トス

第五條 稅務署長ニ於テ災害地租免除法ニ依リ地租ノ免除處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ稅務監督局長ニ稟議スヘシ
被害區域カ他ノ稅務監督局管内ニ涉ルトキハ稅務監督局長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ

附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

災害地租免除法第七條第二項ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ第二條ノ規定ヲ適用セス
災害地租免除法第八條ニ依ル延納年賦金ノ免除ニ付テハ特ニ指令ヲ爲サス

○地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ヲ皇

族所有ノ土地ニ適用スルノ件(大正二年七月三十一日皇室令第八號)

地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財產令第二十一條ニ掲ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○私立學校用地免租ニ關スル法律(大正八年四月五日法律第三十八號)

第一條 左ニ掲ケルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學
- 二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○私立學校用地免租ニ關スル法律施行方

(大正八年十二月二十二日大藏省令第三十三號)

私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

- 一、所在郡、市區町村竝土地ノ字、番號、地目、反別又ハ坪數、地價及其ノ用途
- 二、學校管理者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
- 三、學校ノ設立又ハ變更ノ年月日

前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ
地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○水道條例(抄錄)(明治二十三年二月十三日法律第九號)

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源、貯水地、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第五條 水道用地ハ國稅其ノ他ノ公課ヲ免除ス

○砂防法(抄錄)(明治三十年三月三十一日法律第二十九號)

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

○砂防法施行規程(抄錄)(明治三十年十月二十六日勅令第三百八十二號)

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

○砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件(明治三十二年八月十六日勅令第三百七十四號)

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタ

ル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ハ免除又ハ輕減ノ申請ノ日以後ニ開始スヘキ納期分ヨリ免除ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除ニ因リ地價ヲ設定シタル日輕減ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除ノ日以前ニ開始シタル納期分迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

○北海道舊土人保護法(抄録)(明治三十二年三月一日法律第二十七號)

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

- 一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス
 - 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ
- 前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス
- 舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之

ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

○森林法(抄録)(明治四十年四月二十三日法律第四十三號)

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限り三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
- 五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
- 六 魚附ノ爲必要ナルトキ

- 七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
- 八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ
- 第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ(第二項省略)
- 第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得
- 第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

○北海道國有未開地處分法(抄録)(明治四十一年四月十五日法律第五十七號)

- 第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ
- 第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ
- 第三條 自ら耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ付與ス
- 第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニ

テ貸付スルコトヲ得

- 第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限り特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得
- 第十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得
- 前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

○地種變更免租年期ニ關スル法律(大正七年五月二十五日法律第四十三號)

- 第一條 左ニ掲クル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタルトキハ地租ヲ課スルニ至リタル年ヨリ二十年以内ノ地種變更免租年期ヲ許可ス但シ事業成功ノ定アル土地ニ付テハ事業成功後開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタル場合ニ限ル
- 一 明治八年開拓使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

- 二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除シタル土地
- 五 明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

地種變更免租年期限ニ至リ地味成熟ニ至ラサルモノニ付テハ更ニ年期限ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ通シテ三十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 地種變更免租年期限又ハ其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ政府ニ申請スヘシ
附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前既ニ地租ヲ課スヘキ土地トナリ未タ地價ノ設定ナキモノニモ之ヲ適用ス

○地種變更免租年期限ニ關スル法律施行規則

(大正七年五月二十五日大藏省令第二十三號)

第一條 地種變更免租年期限ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ開墾成功シ又ハ地目變換ヲ爲シタル後六十日內ニ開墾又ハ地目變換ニ要シタル勞費ニ關スル明細書ヲ添へ地種變更免租年期限ノ許可ヲ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

第二條 前條ニ依リ地種變更免租年期限ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ工事著手前三十日迄ニ工事著手ノ年月日、土地ノ所在、地番、現在地目、目的地目、段別及豫定ノ成功期日ヲ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

第三條 地種變更免租年期限延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期限滿了後六十日內ニ所轄稅務署長ニ其ノ旨申請スヘシ

○都市計畫法(抄錄)(大正八年四月五日法律第三十六號)

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○航空法(抄録)(大正十年四月九日法律第五十四號)(未施行)

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニヨリ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スル者又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○耕地整理法(抄録)(明治四十二年四月十三日法律第三十號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

- 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
- 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理
- 三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設
- 四 前三號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第九條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、漁業ニ關スル登録官廳、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償

ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所、漁業ニ關スル登録官廳又ハ土地臺帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合若ハ耕地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長又ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 本法ニ依ル開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條、第十一條及第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス埋立地又ハ干拓地ニ付亦同シ

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘

シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス
前項ノ場合ニ於テ地租ノ稅率同一ナラサル土地アルトキハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ合計額
ヲ每筆相當ニ配賦シ當該地目ノ稅率ヲ以テ除シタル金額ヲ其ノ配賦地價トス但シ第十一條第二項
ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ
於テハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ平均額ヲ其面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ地租ノ合計額ヨリ
控除シタル額ヲ以テ地租ノ合計額ト看做ス
前二項ノ規定ハ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ第一類地ニ開拓シタル土地、埋立地又ハ干拓地ニ
付テハ之ヲ適用セス

整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地域、地目
及地價ニ依リ之ヲ徵收ス
規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ第一項、第二項及第四項
ノ整理施行地區ト看做ス

第十四條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區内ノ民有土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付
開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ
地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正地價總額ト之ニ對スル原地價總額トノ差額ノ平均額ヲ五分ノ一
ヲ超過スル面積ニ乘シタル額ヲ原地價總額ニ加ヘタルモノヲ以テ前條第一項ノ現地價トス
前項ノ場合ニ於テハ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ四十年、變換シタル土地ニ付テハ

工事完了ノ年ヨリ六年ノ耕地整理地價据置年期ヲ許可シ年期明ノ年ヨリ修正地價ニ依リ其ノ地租
ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ年期明ニ至リ工事完了又ハ地味成熟セサルトキハ更ニ工事完
了迄又ハ十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル地目變換ハ之ヲ開墾ト看做ス
地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一
項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設定シ前條第一
項ノ現地價トス

第二項ノ規定ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テ修正地價ニ依リ算出シタル地租額カ原地價ニ依リ
算出シタル地租額ヨリ少キ土地ニ付テハ之ヲ適用セス

第十四條ノ二 耕地整理ノ施行ニ依リ其ノ地區内ノ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ開拓シテ第一類
地ト爲シタルトキ又ハ國有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シテ民有地ト爲シタルトキハ埋立地又ハ干拓
地ニ付テハ六十年、其ノ他ノ土地ニ付テハ二十年ノ耕地整理新開免租年期ヲ許可ス但シ年期明ニ
至リ地味成熟セサルトキハ更ニ十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ年期明ニ至リ其ノ地價ヲ設定シ其ノ年ヨリ地租ヲ徵收ス

第十五條 整理施行地區内ノ土地中開墾著手後二十年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ
關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 開墾ヲ爲シタル土地又ハ畝下年期、新開免租年期、地價据置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ

際地價ヲ修正シ又ハ設定ス但シ工事完了ノトキニ於テ地價ノ修正又ハ設定當時ノ現況ヨリ第一類地ノ地目ニ變更シタル場合ニ於テハ開墾又ハ地目變換ヲ爲シタルモノト看做シ第十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

三 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾著手後二十一年目又ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾著手後二十年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ年期ノ終了セサル土地又ハ第十四條ニ依リ年期ヲ許可シタル土地アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條ニ依ル年期中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス

前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ホサス

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示シ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條ノ二 耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テハ組合ハ其ノ所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

○耕地整理法施行規則(抄録)(明治四十二年十月十三日農商務省令第三十九號)

第五條 整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於テ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ非シテ地租ヲ課セサル土地、耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地及一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理地施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ

第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分テタル場合ニ於

テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ

- 一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
- 二 工事其ノ他ノ事業ノ計劃説明

三 (削除)

四 主要工事ノ仕様

五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定

六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

七 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖

八 整理豫定圖

九 工事ノ著手及完了ノ豫定期期

十 維持管理ニ要スルモノヲ除ク外工事費其ノ他一切ノ費用及夫役現品ノ豫算

第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前

第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 整理施行地ノ屬スル郡、市町村並土地ノ字、番號及水面ノ位置、面積

二 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日

三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定

四 耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價

五 工事ノ著手及完了ノ豫定期期

第十條ノ二 整理施行地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條ノ二 耕地整理法第十四條及第十五條第一號但書、第二號ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ要スル土地ニ付テハ整理施行者ハ従前ノ土地ノ字、番號、地目、面積及修正又ハ設定地價ノ見積額ヲ記シタル書面並従前ノ土地及工事施行後ニ於ケル土地各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ作り第十一條ノ規定ニ依ル工事完了ノ届出ト共ニ所轄稅務署長ニ之ヲ差出スヘシ但シ地價ノ見積ニ付テハ評議員ヲ置ク耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及地價配當案ヲ作ルヘシ

前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十五條 耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散ノ爲工事ノ利益ヲ受クルコト能ハサル土地ニ付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦同シ

第十五條ノ二 耕地整理地價据置年期又ハ耕地整理新開租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ所轄稅務署長ニ之ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ整理施行者ハ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ所轄稅務署長ニ之ヲ申請スヘシ耕地整理法第十四條ノ二ノ規定ニ依リ民有地ト爲シタル土地ニシテ第一項ノ期間内ニ耕地整理新開免租年期ノ申請ナキトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第十六條 耕地整理法第三十條第三項ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シテ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ

第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル申告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク所轄稅務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

○地租徵收ニ關スル法律

(明治三十七年四月一日法律第十二號)

第一條 (自然消滅)

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
納期開始前十五日ヨリ納期開始マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ

第三條ノ二 市町村ハ前條ノ報告ト同時ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ノ地價ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○土地臺帳規則 (明治二十二年三月二十三日勅令第三十九號)

- 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登録ス
- 第二條 市ノ土地臺帳ハ〔府縣廳〕ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ〔島廳郡役所〕ニ於テ之レヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 (自然消滅)
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサル者ハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト看做スコトヲ得
- 第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第七條 〔市制〕ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○土地臺帳規則施行細則 (明治二十二年四月一日大藏省令第六號)

- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登録スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
- 第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セムトスル者ハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ〔府縣廳〕町村ハ〔島廳郡役所〕ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セス謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

土地臺帳謄本											
郡	市	町	村	大字	字	地番	地目	段別又ハ坪數	地價	事故	所有者住所氏名
年	月	日									
何稅務署印											

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニアラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ設定、移轉、消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登録セス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ依リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地トナリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

地租 土地臺帳規則施行細則
一三六
相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

事項	項目	備考
土地所有権	登記簿	1.
土地所有権	登記簿	2.
土地所有権	登記簿	3.
土地所有権	登記簿	4.
土地所有権	登記簿	5.
土地所有権	登記簿	6.
土地所有権	登記簿	7.
土地所有権	登記簿	8.
土地所有権	登記簿	9.
土地所有権	登記簿	10.
土地所有権	登記簿	11.
土地所有権	登記簿	12.
土地所有権	登記簿	13.
土地所有権	登記簿	14.
土地所有権	登記簿	15.
土地所有権	登記簿	16.
土地所有権	登記簿	17.
土地所有権	登記簿	18.
土地所有権	登記簿	19.
土地所有権	登記簿	20.
土地所有権	登記簿	21.
土地所有権	登記簿	22.
土地所有権	登記簿	23.
土地所有権	登記簿	24.
土地所有権	登記簿	25.
土地所有権	登記簿	26.
土地所有権	登記簿	27.
土地所有権	登記簿	28.
土地所有権	登記簿	29.
土地所有権	登記簿	30.
土地所有権	登記簿	31.
土地所有権	登記簿	32.
土地所有権	登記簿	33.
土地所有権	登記簿	34.
土地所有権	登記簿	35.
土地所有権	登記簿	36.
土地所有権	登記簿	37.
土地所有権	登記簿	38.
土地所有権	登記簿	39.
土地所有権	登記簿	40.
土地所有権	登記簿	41.
土地所有権	登記簿	42.
土地所有権	登記簿	43.
土地所有権	登記簿	44.
土地所有権	登記簿	45.
土地所有権	登記簿	46.
土地所有権	登記簿	47.
土地所有権	登記簿	48.
土地所有権	登記簿	49.
土地所有権	登記簿	50.

營業收益稅

◎營業收益稅

○營業收益稅法(大正十五年三月二十七日法律第十一號)

第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム)
- 二 銀行業
- 三 無盡業
- 四 金錢貸付業
- 五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム)
- 六 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)
- 七 運送業(運送取扱ヲ含ム)
- 八 倉庫業
- 九 請負業
- 十 印刷業

營業收益稅 營業收益稅法

- 十一 出版業
- 十二 寫真業
- 十三 席貸業
- 十四 旅人宿業(下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マス)
- 十五 料理店業
- 十六 周旋業
- 十七 代理業
- 十八 仲立業
- 十九 問屋業

第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條 法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス
資本金子稅ヲ課セラルヘキ資本金子ハ之ヲ純益ニ算入セス

第七條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス

- 一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
- 二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣
- 三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 四 新聞紙法ニ依ル出版
- 五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
- 六 法人ノ漁業又ハ演劇興行
- 七 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 法人 百分ノ三・六
- 個人 百分ノ二・八

營業收益稅 營業收益稅法

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十四條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第二十三條 第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢查シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スヘシ

第二十七條 所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ檢查ヲ妨ケ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示

シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第三十條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事山ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

○營業收益稅法施行規則(大正十五年九月九日勅令第三百三號)

第一條 法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第二條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地又ハ資本ノ利子ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三・六ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地又ハ資本ノ利子アルトキハ其ノ地租總額又ハ資本利子稅總額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第三條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ資本利子稅額中公債、社債又ハ產業債券ニ對スルモノハ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル資本利子稅額ハ其ノ納付シタル資本利子稅額ヲ其ノ公債、社債又ハ產業債券ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セサリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第四條 營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額又ハ資本利子稅額ノ控除

ヲ受ケムトスル者ハ營業收益稅法第十一條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別又ハ資本利子ノ種類別ニ其ノ地價又ハ利子、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第五條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第七條 營業收益稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ營業收益稅法第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

第二條第二項ノ規定ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第九條 營業收益稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケムトスル者

ハ營業收益稅法第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ番號、地目、地價及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
 - 二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
 - 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
 - 四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
 - 五 燐、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
 - 六 製紙用パルプ
 - 七 板硝子
 - 八 コンデンズドミルク
 - 九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物
- 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ハミヲ製造スル者ニ限ル

第十一條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十二條 營業收益稅法第八條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第十一條又ハ第十二條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第十條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 稅務署長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ見込額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條 稅務署長營業收益稅法第十三條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 營業收益稅法第十七條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第十八條 所得稅法施行規則第五十六條ノ規定ハ純益金額ノ決議ニ付之ヲ準用ス

第十九條 稅務監督局長營業收益稅法第十八條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十條 營業收益稅法第十九條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第二十一條 稅務署長營業收益稅法第二十條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十二條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第二十三條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第二十四條 收稅官吏營業收益稅法第二十五條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帯スヘシ

附則

本令ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ地租額又ハ資本利子稅額ハ當該事業年度ノ總日數ニ對スル大正十六年ニ屬スル日數ノ割合ヲ其ノ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ニ乘シ之ヲ計算ス

○營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依

リ收稅官吏ノ携帯スヘキ檢査章書式ノ件(大正十五年九月九日大藏省令第三十五號)

五號)

營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ携帯スヘキ檢査章書式左ノ通定ム

書式(用紙厚質白紙縱二寸五分)

第何號	何稅務署
檢査章	官氏名
稅務署印	

營業收益稅

營業收益稅法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ携帯スヘキ檢査章書式ノ件

營業收益稅 貯蓄銀行法 鑛業法 保險業法 右ノ外所得稅ノ部ニ掲出セ
ル營業收益稅免除ニ關スル法令左ノ通

一五〇

○貯蓄銀行法(抄録)(大正十年四月十四日法律第七十四號)

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

○鑛業法(抄録)(明治三十八年三月八日法律第四十五號)

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

○保險業法(抄録)(明治三十三年三月二十二日法律第六十九號)

第九十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

○右ノ外所得稅ノ部ニ掲出セル營業收益稅免除

ニ關スル法令左ノ通

- 一 産業組合法
- 一 産業組合中央金庫法
- 一 住宅組合法
- 一 輸出組合法
- 一 重要輸出品工業組合法
- 一 漁業法
- 一 農業倉庫業法
- 一 製鐵業獎勵法

資本利子稅

◎資本利子税

○資本利子税法(大正十五年三月二十七日法律第十二號)

- 第一條** 本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニヨリ資本利子税ヲ課ス
- 第二條** 資本利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス
- 甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益
- 乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子
- 本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ
- 第三條** 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル
- 第四條** 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル
- 被相續人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス
- 第五條** 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノハ資本利子税ヲ課セス
- 一 所得稅法其ノ他ノ法律ニヨリ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
- 二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子
- 第六條** 資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス
- 信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本利子税額ハ命令ノ定ムル所ニ

ヨリ當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本利子税ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第七條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニヨリ毎年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條 乙種ノ資本利子金額ハ所得税法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ資本利子金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條 稅務署長ハ毎年乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本利子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 所得税法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本利子金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十一條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十二條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通

知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十三條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得税法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 納稅義務者前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十五條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子税ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ資本利子税ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子税ノ納稅地トス

第十八條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子税ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子税ヲ逋脱シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第二十條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ資本利子税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子税ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限り第七條中三月十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三十日限、第十條ノ規定ニ依ル期日五月三十一日トアルハ八月三十日トス

○資本利子税法施行規則(大正十五年三月三十一日勅令第三十一號)

第一條 資本利子税法第六條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税額ヨリ控除スヘキ資本利子税額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル資本利子税徵收ノ際之ヲ控除スヘシ

第二條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第三條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告ハ所得税法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スヘシ

第四條 稅務署長資本利子税法第八條、第十條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五條 資本利子税法第十二條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第六條 稅務監督局長資本利子税法第十三條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第七條 資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサル者無記名ノ公債、社債又ハ産業債券ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支

拂ノ取扱所ニ通知スヘシ但シ所得税法施行規則第六十四條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條 甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子税ヲ徴收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ

附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○資本利子税法施行細則(大正十五年四月一日大藏省令第十六號)

第一條 資本利子税法施行規則第八條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子税ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第三條 甲種ノ資本利子ニ付資本利子税ノ過誤納アリタル爲之カ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓 從四寸五分 橫三寸三分)

資本利子税拂込書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	資本利子	何稅務署
Y		
頭書ノ金額拂込候也		
何縣何市長		
何某團		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
日本銀行何店宛		
大正何年何月何日		

備考

一 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

資本利子税 資本利子税法施行細則

備考

一 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

領收證書

第何號	何年度	資本利子税
何縣何市長		
何某納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
		Y 圓
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店團		

通知書

第何號	何年度	大藏省主管			
租税	資子	本利税	資子	本利税	何稅務署
何縣何市長					
何某納					
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)					
					Y 圓
大正何年何月何日領收					
日本銀行何店團					
何稅務署長官氏名殿					

第二號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分二枚接續)
横三寸三分二枚接續

資本利子税 資本利子税法施行細則

大正何年何月分
資本利子税徴收高計算書
貸付信託以外ノ分

區 分	支拂ヘキ金額	支拂金額		支拂未済金額	税額	摘要
		非課税	課税			
何 公 債 利 子						
何 社 債 利 子						
何 産 業 債 券 利 子						
銀 行 預 金 利 子	定期預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	當座預金					
計						
合 計						

大正何年何月何日
何縣、市町村又ハ何會社

備考

一 支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
二 非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス
三 第二種所得税徴收高計算書ノ税額欄ノ次ニ資本利子税額ノ一欄ヲ設ケテ併用シ本計算書ヲ省略スルコトヲ得

備考
一 支拂フヘキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
二 控除シタル資本利子税額ノ欄ニハ資本利子税法第六條第二項ノ規定ニ依リ控除シタル資本利子税額ヲ記載スルモノトス
三 非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

大正何年何月分
資本利子税徴收高計算書
貸付信託ノ分

大正何年何月何日	何々信託會社	税額		支拂未済金額	支拂ヘキ金額	摘要
		當初算出税額	内控除シタル資本利子税額			

相
續
稅

（一）繼承人所得繼承財產之總額，除其應歸屬繼承人所得繼承財產之總額外，其剩餘部分，即為繼承人所得繼承財產之淨額。

（二）繼承人所得繼承財產之淨額，依其繼承人所得繼承財產之種類，分別計算其應納稅額。

（三）繼承人所得繼承財產之淨額，依其繼承人所得繼承財產之種類，分別計算其應納稅額。

項目	金額	稅率	應納稅額
遺產總額			
免稅額			
課稅總額			
應納稅額			

◎相續稅

○相續稅法

(明治三十八年一月一日法律第十號)

改正 明治四十三年三月二十五日法律第四號

大正三年三月三十一日法律第二十二號

大正十一年四月十八日法律第四十八號

大正十五年三月二十七日法律第十三號

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

- 一 本法施行地ニ在ル動產及不動產
 - 二 本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利
 - 三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權
- 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

相續稅 相續稅法